

平成 24 年 6 月 16 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム

平成 24 年 第 5 回講話

今日は足元の悪い中、お集まり戴きました。有難うございます。

本日の一冊

最初にご紹介しておきましょう。本日の紹介書籍は『最終目標は天皇の処刑 中国「日本開放工作」の恐るべき全貌』(ペマ・ギャルポ著 飛鳥新社)です。ショッキングがタイトルですが、中身を読んで思い出したのは、終戦後GHQが日本に対して行った占領政策と同じ内容だと思えます。アメリカが日本を占領し統治する際、3S政策(スポーツ・スクリーン・セックス)を日本中に広げることによって、日本人を骨抜きにしようとした。この本は、中国が日本を植民地化する時の考え方を紹介しています。

ペマ・ギャルポさんはチベットのかかなり裕福な家庭に生まれ育ちました。中国がチベットをどのように植民地化していったかという経緯を、自分の体験談で書いています。最初に中国がチベットに来た時には、友好的に柔らかく入って来ました。それがだんだんと本性を現して、チベットを根こそぎ植民地化していきました。ペマ・ギャルポさんはその原因を、「チベットは占領されたことがなかったから平和ボケをしていた。国内でコップの中の争いをしているところに、中国がつけ込んだ」と語っています。

この本に書かれている年代は田中内閣の頃です。中国の外務省関係の人から得た情報をベースに書いたようです。中身を見ると、出生率の低下で日本の人口はどんどん減少するので、日本列島の西半分は中国人を移住させて「東海省」とし、少数民族となった日本人を東半分に強制移住させて「日本自治区」とするとあります。

他にも氣になった部分が沢山ありました。いくつか抜粋して読みあげます。

資料編「日本解放第二期工作要綱」

基本戦略

我が党(中国共産党)の日本解放の当面の基本戦略は、日本が現在保有している国力の全てを、我が党の支配下に置き、我が党の世界解放戦に奉仕せしめることにある。

解放工作組の任務

日本の平和開放は、下の三段階を経て達成する。

- ・第一期目標 我が国との国交正常化
- ・第二期目標 民主連合政府の形成
- ・第三期目標 日本人民民主共和国の樹立・・天皇を戦犯の首魁として処刑

田中内閣の成立以降の日本解放第二期工作組の任務は、右の第二項、すなわち「民主連合政府の形成」の準備工作进行を完成することにある。

群衆掌握の心理戦

駐日大使館開設と同時になされなければならないのは、全日本人に中国への好感、親近感を抱かせるという、群衆掌握の心理戦である。好感、親近感を抱かせる目的は、我が党、我が国（中共）への警戒心を無意識の内に捨て去らせることにある。・・・（中略）この為に、以下の各項を速やかに、且つ継続的に実施する。

1. 展覧会・演劇・スポーツ

中国の書画、美術品、民芸品等の展覧会、舞劇団、民族舞踊団、民謡団、雑技団、京劇団の公演、各種スポーツ選手団の派遣を行う。

第一歩は、日本人大衆がシナ大陸に対し、今なお持っている「輝かしい伝統文化を持っている国」「日本文化の来源」「文を重んじ、平和を愛する民族の国」というイメージを掻き立て、更に高まらせることである。我が国の社会主義改造の誇るべき成果についての宣伝は、初期においては少ない方がよく、全然触れなくても構わない。

スポーツ選手団の派遣は、ピンポンの如く、試合に勝ちうるものに限定してはならず、技術的に劣っている分野の選手団をも数多く派遣し、日本選手に学ぶという率直な態度を示して、好感を勝ち取るべきである。

マスコミ工作

大衆の中から自然発生的に沸き上がってきた声を世論と読んだのは、遠い昔のことである。次の時代には、新聞、雑誌が世論を作った。今日では、新聞、雑誌を含め所謂「マスコミ」は、世論造成の不可欠の道具に過ぎない。マスコミを支配する集団の意思が世論を作り上げるのである。

偉大なる毛主席は「およそ政権を転覆しようとするものは、必ずまず世論を作り上げ、先ずイデオロギー面の活動を行う」と教えている。

田中内閣成立までの日本解放（第一期）工作組は、事実でこの教えの正しさを証明した。日本の保守反動政府を幾重にも包囲して、我が国との国交正常化への道へと追い込んだのは日本のマスコミではない。日本のマスコミを支配下に置いた我が党の鉄の意志とたゆまざる不断の工作とが、これを生んだのである。

新聞と雑誌・・・接触対象の選定は「10人の記者よりは、1人の編集責任者を獲得せよ」との原則を守り、編集を主対象とする。

テレビ、ラジオ等・・・これらは、資本主義国においては「娯楽」であって、政府の人民に対する意志伝達の媒介体ではない。この点に特に留意し、「娯楽」として利用することを主点とすべきである。具体的な方向を示せば、「性の解放」を高らかに謳い上げる劇又は映画、本能を刺激する音楽、歌謡等は望ましい反面、スポーツに名を借りた「根性もの」と称される劇、映画、動画、または歴史劇、映画、歌謡並びに「ふるさとの歌祭り」等の郷土愛、民族一体感を呼び醒ますものは好ましくない。前者をより多く、後者をより少なく取り上げさせるよう誘導せねばならない。

テレビのニュース速報、実況報道の利用価値は極めて高い。画面は真実を伝えるものではなく、作るものである。目的意識を持って画面を構成せねばならない。

政党工作

議員を個別に掌握・・・国会議員を個別に掌握して、秘密裏に本工作員の支配下に置く。第一期工作組がすでに獲得したものを除き、残余の議員全員に対し接触線を最少四線設定する。

各党の役職者及び党内派閥の首長、有力者については、その秘書、家族、強い影響力を持つ者の三者に、個別に接触線を最少二線設定する。

招待旅行・・・議員及び秘書を対象とする、我が国への招待旅行を下の如く行う。

各党別の旅行団。団体の人数は固定せず、実情に応じて定める。但し、団体構成の基準を、「党内派閥」「序列」「年齢」「地域別」「その他」そのいずれかにおくかは慎重に検討を加え、工作員の主導の元に、我が方に有利になる方法を探らしむるよう、工作せねばならない。

党派を超えた議員旅行団。議員の職業、当選回数、選挙区、選挙基盤団体、出身校を子細に考慮し、多種多様の旅行団を組織せしめる。

駐日大使館開設後1年以内に、全議員を最低1回、我が国へ旅行せしめねばならない。自民党議員中の反動極右分子で招待旅行への参加を拒む者に対しては、費用自弁の個人旅行、議員旅行団以外の各種団体旅行への参加等、形式の如何を問わず、我が国へ一度旅行せしめるよう工作せねばならない。

対自民党工作

自民党内派閥の対立を激化せしめる。自民党総裁選挙時における派閥の権力闘争は常に見られる現象で通常は総選挙を経て若干緩和され、一つの党として受けて曲りなりにも保持していく。今回はそれを許してならない。田中派と福田派の対立の継続と激化、田中派と大平派、三木派、三派の離間、中間五派の不満感の扇動等を主点として、第一期工作組は工作を

展開中である。総選挙後、若干の変動があっても、派閥の対立を激化せしむるという工作の原則は変わらない。

派閥対立を激化せしめる最も有効な方法は、党内の非主流派となって政治活動資金の調達に困難を生じている各派に個別に十分な政治資金を与えることである。政治献金は合法であり、これを拒む政治家はいない。問題は方法のみであり、工作人員から A へ、A から B へ、B から C へ、C から D へ、D から議員又は団体という如く間接的に行うのは言う迄もない。

先に述べた議員個人の掌握は、それ自体が連合政府樹立の有効な手段となるが、派閥対立激化についても活用するのはもとよりである。

というように、かなり具体的に書かれています。

私がこの本を読んで特に興味を感じたのは、ペマ・ギャルポさんは小さい頃に中国の占領政策が始まり、チベットから追い出されて日本に亡命し帰化したわけですが、チベットが植民地化されていった手順と、日本に向けられた手順がそっくり同じだと声明している所です。尚且つ、この話は以前にも申しましたように、対中国貿易を 40 年以上もやっておられる中斎塾フォーラム参与の大野さんが中国の軍人から聞いた内容と同じです。その時大野さんは、日本で天皇陛下を処刑するなどということになれば中国と戦争になりますと言いかけたそうですが、喧嘩にならないように言葉を飲み込んで、「とんでもないことだ」と言ったそうです。

そういう観点から見ると、伊藤忠商事の元社長の丹羽中国大使はそのペースですね。「尖閣諸島を東京都が買うとなれば中国と日本で大変な問題が起きる」と発言しました。それに対して「日本の政府の見解とは違う」と藤村官房長官が言いましたが、何とも声が弱すぎます。政府は日本のために良かれと思って色々なことをやりますが、それが結果として、日本の中国による植民地化を進めていくという流れの中に入っていると思います。

先日、群馬郷学会の事務局の方にお会いしました。群馬郷学会という組織は、師友協会という安岡正篤先生の関係団体が全国にありましたが、その一つ、群馬県師友協会が前身です。安岡正篤先生が亡くなられた後に、群馬県師友協会は解散をしましたが、その後を受け継いで群馬郷学会という、ふるさとを学ぶ会が出来ました。初代の会長さんが星野物産の星野精助会長、二代目は元県会議長の柳沢本次さんです。その群馬郷学会の会長を頼まれまして、お引き受けすることにしました。

その会の事務局長は鈴木喜代さんという女性ですが、先日お会いした時に、この本の話に致しました。「日本もかつて 3 S 政策の一環で、子供たちに郷土愛を育ませてはならない、

偉人の話をしてはならない、日本の歴史、特に神話を教えてはならないという指令がGHQから出て、教科書に墨をぬったことがあるのですよ」と話しましたら、鈴木さんは小学五年生で教科書に墨をぬった経験がございました。アメリカの3S政策によって、今の日本文化の崩壊の花が開いたと私は思っています。

チベットも同じことを中国から受けていました。表向きはチベット語が公用語となっていますが、チベット語はなかなか使う機会が少ないそうです。チベットは仏教国ですが、お坊さんが経典を唱えるのはよいけれども、中身は教えてはいけない。仏教教育を一切してはいけないようになっていると書かれていました。

中国は日本に対してそれと同じ事を仕掛けてきているというのがペマ・ギャルポさんの見解です。日本は今、かなり際どい所に来ていると思います。後ほど時事評論で詳しくお話しします。

恒例の質問

昨日一日、嘘をつかなかった方？

昨日は良い日だったなという方？

昨日一日、有難うと言ひ、有難うと言われた方？

・・・皆さん優秀ですね。

自分の健康法をお持ちで、昨日健康法を実施した方？

・・・昨日一日とお聞きしたせいか、皆さん手が挙がりました。これが一週間とか、一月になると難しくなります。

昨晚寝る時、今日のことを過去形でイメージして眠れた方？

・・・何名か手が挙がりました。だんだんそういうイメージが出来てくれば素晴らしいですね。

今日の論語 孔子の食生活

今日解説するところも、今の時代にあまり関係がないと思う部分なので、さらっと解説します。

【六】君子は紺緞を以て飾らず。紅紫は以て褻服と為さず。暑に当りては袵の締結す。必ず表して之を出す。緇衣には羔裘、素衣には麀裘、黄衣には狐裘。麀裘は長くし、右の袂を短くす。必ず寝衣有り、長一身有半。狐貉の厚き、以て居る。喪を去きては佩びざる所無し。帷裳に非ざれば、必ず之を殺ぐ。羔裘玄冠しては、以て弔せず。吉月には必ず朝服して朝す。

君主は、普段着の襟のふちは飾らない。普段着には赤紫色は使わない。暑い時は葛布の単衣を着る。必ず上着を外に出す。黒色の上着には黒い色の羊皮の上着を使い、白い上着には小鹿の毛皮を使う、黄色の上着には黄色い狐の毛皮を使う。普段着の毛皮の衣は長くして、邪魔にならないように右の袂を短くする。

夜は必ずパジャマを着る。その長さは身長の一俵半に決められている。狐やむじなの厚い毛皮は敷物に使う。

喪中の時は、普段つけている首飾りなどは外す。祭服の袴は、広がっている下の方は裁ち落とす。吉事に使われる黒い子羊の衣や、赤黒い冠をして弔問には行かない。毎月一日には必ず礼服を着て朝廷に出る。

【七】 齊するときは必ず明衣有り、布をもってす。齊するときは必ず食を変じ、居るには必ず坐を遷す。

神をまつる時には、必ず清潔な沐浴の衣服（浴衣のようなもの）を着る。布は麻の織物を使う。神を祀る時には酒や生臭い物は食べないし、座っている場所も移す。

【八】 食は精を厭わず。膾は細を厭わず。食の體して鰯し、魚の餒して肉の敗れたるは食わず。色の悪しきは食わず。臭の悪しきは食わず。飪を失えるは食わず。時ならざるは食わず。割の正しかざるは食わず。其の醬を得ざるは食わず。肉多しと雖も、食氣に勝たしめず。惟酒は量無し、乱に及ばず。古酒市脯は食わず。薑を撤せずして食うも、多くは食わず。公に祭るときは肉を宿せず。祭の肉は三日を出さず。三日を出づれば之を食わず。食うに語らず。寝ぬるに言わず。疏食菜羹瓜と雖も祭るときは必ず齊如たり。

孔子の食生活について書かれています。この部分は現代でも役に立つと思います。

孔子は精米している米を好み、なますは細かく刻んだものを好んだ。ご飯が饅えて味が変わったものや、傷んだ魚や腐った肉は食べない。変色したものは食べない。臭いがひどくなったものも食べない。煮加減の悪いものも食べない。旬でないものは食べない。切り方が悪いのも食べない。だし汁が悪いのも食べない。

肉が多いといっても、ご飯の量よりも多く食べない。酒はいくらでも飲むけれども、乱れることはない。

市場で売っている酒や干し肉は食べない。口直しで食べる生姜は捨てずに食べるけれど

も、多くは食べない。君主から祭祀の供物の肉が下げ渡された時には、その日の内に食べて、三日を過ぎたら食べない。

食べながら話をしない。寝る時にもお喋りをしない。

粗末なご飯、野菜汁、瓜といったものでも、初物を供える時には、厳粛な態度で慎みながら供える。

孔子の食生活・食習慣とご自分の食生活を照らし合わせて考えるとよろしいと思います。ただ、これは食べない、あれは食べないというものばかりで、こういうご主人をもった奥さんは大変だと感じます。

時事評論

時事評論で一番肝心なことは、視点と判断基準を持つことです。

新聞を読む際、中斎塾フォーラムでご紹介しているのは三つの視点です。すなわち、民主党の打つ無様な手・国債の動向・自然災害です。この視点で見続けていると世の中がよく見えてきます。

・民主党の打つ無様な手

客観的に物を見るということではなくて、最初から民主党の打つ手は無様な手なのだ決めてかかっているところがミソです。仮に良いことをやっているようだなと思ったとしても、最初から私は民主党の打つ手は、皆、日本の国を悪い方向へ持っていかうとしているはずだという感覚で見て、それをひっくり返すような話があれば真剣に見るという見方をしています。

今の民主党、特に野田さんに関しては疑問があります。野田さんは消費税しか見えなくなっているような感じがします。なぜ消費税増税にあれだけ執念を燃やすのでしょうか。政治生命を賭けるなどと、おかしなことを言うものだとずっと思い続けています。なぜなら増税は国を滅ぼすという考え方が私は根本にあります。

中国にはこういう話があります。孔子がお弟子さん達と山の中を歩いていると、お婆さんが泣き崩れている。訳を聞くと、亭主が人喰い虎に食われ、今また息子までも食われてしまったと言う。そんな所からなぜ逃げ出さないのかと訪ねると、お婆さんは、ここは税金が酷くないからだと答えた。日本でも江戸時代、山田方谷が「理財論」の中で、重税は国を滅ぼすと言っています。野田さんは松下政経塾出身ですが、松下幸之助さんも税金を安くするのが政治家の役割だとか、税金はただが良いという内容の発言をしています。

今朝の新聞で、消費税増税関連法案が三党合意したとありました。「社会保障と税の一体改革」という、訳の分からない国民が呑みやすい表現に変えて、野田さんはせっせと増税路線を進めています。民主党が分裂するのを前提にして、後の再編を睨みながら自民党と公明党と修正協議を進め合意をしたのだと見えます。

これで平成 15 年 10 月までに消費税は 10%のアップですから、そうなったらどうなるのでしょうか？ 景気は良くなるのでしょうか？ 日本の国は良くなるのでしょうか？ 以前消費税を 5%に上げた時、それで税収は増えたのかということを考えてみれば、単に官僚の手のひらに乗かって踊らされているとしか見えません。

民主党の打つ無様な手で、税金については亡国を大いに進めています。重税で進んでいけば当然国は滅びる。そういう流れに進んでいます。ただ、皆良かれと思ってやっている。目の前の税金が少ないから増やそうと官僚が考えて、税金を増やす為の手立てをしているのです。

しかし税金を増やしても、国民全体にどうしても国に対する不信感が生まれます。日本の国を信用できないということについては、私は何度も申し上げています。今の年金制度にしても源泉徴収の仕組みにしても、どちらも戦費調達で始まったものです。戦争する為の費用が足りないから、年金という仕組みを考え出して積立方式でスタートさせた。それを使い込んで足りなくなったから、内緒でこそこそと賦課方式に切り替えて現在に来ているのです。民間であれば、詐欺事件です。しかも年金制度を考えた頃は、日本人男性の平均寿命は 50 歳未満です。60 歳になったら年金を払うと謳っても、はなから払うつもりはなかったというわけです。源泉徴収も同じです。戦費調達の為に臨時で始めて、戦争が終わったらやめるはずだった。ところがこんなに便利で重宝な制度はないから、相変わらず続けているのです。

日本の政府がどういうことを言ったかということは見ません。どういうことをやったのかをチェックしていく必要がある。日本の政府がやったことでお金に関係するものは、私は全く信用できないと思っています。日本政府は詐欺を繰り返しているからです。

そういう予断をもって見えていますから、野田さんは誰に動かされているのか、誰に言われたのかと思いますし、日本の官僚はどこからそういう話を聞いたのかと思います。

リーマンショックの時は、裏で数千億儲けた外国人が仕掛けたのだという記事がありました。その記事によると、仕掛人の次のターゲットはフランスで、その次は日本で数兆円儲けると宣言しているそうです。

我々が考えている背後に、色々なことを画策し実行する連中がいるということです。日本の政策も、日本人だけが考えて行っている政策ではない。中国が日本を植民地化しようと考えて色々打っている手、アメリカが打っている手、ヨーロッパが打っている手...それらが渾然一体となって今の日本を動かしている。その中で、ごく一部の日本人で、これから日本はこうすべきだという動きがポツリポツリとあちらこちらに生まれているのが現状だと見えます。

昔の体験談ですが、日本JC(青年会議所)という組織でソ連に行ったことがあります。ソ連に行くことが決まったら、警察庁から呼び出しがありました。7、8人のメンバーで出掛けて行って、課長補佐からロシアに渡航する心構えについての説明がありました。「あなた方はソ連のクモという青年団から招聘されて出掛けていくということなので、ソ連からマークされます」と言われました。ソ連がマークするのは、第一に国会議員、第二は地方議員、三番目は財界のお偉いさんで、最後はこれから偉くなると思われる人だそうです。更に、泊まっているホテルの部屋を綺麗な女性が訪ねてきたら、それはKGBか内務省のスパイだから後々ビデオや写真を撮られて脅されるので充分注意をするようにときつく言われました。実際に向こうの手の内にかかって、脅されたりお金を掴まされて、帰国後それまでの主張や態度が豹変した政治家もいるそうです。中国も同じことをやっていると感じます。ですから外国、特に共産圏から帰国後に発言が変わった政治家や財界人や評論家は皆、裏で操られていると日本の公安は見ています。

こういう話はマスコミには出ません。ただ、私は現実に警察庁に行って、課長補佐に会った。課長補佐は警察庁の有権解釈をしていますから、ある程度の実権を握っています。その課長補佐の口から出ている話です。

私は世間に沢山出ている話を選び分ける体験を持っていますので、その体験で判断をしています。民主党の打つ無様な手を見る時、新聞やテレビに出ているものにプラス自分の体験を入れて判断基準にするとよろしい。それには体験を厚めにしておかないと、これは本物の話か・作られた話かを篩にかけることが出来ません。見分ける眼力を持つために、なるべく色々な話を仕入れる必要がある。それもテレビで見たり、新聞で読んだりするのではなくて、自分が直に出掛けて行って、直に話を聞く、直接体験を積み重ねるべきです。これが総合的直観力につながります。総合的直観力は自分の体験を積み上げて、何度も何度も分析をし、自分で腑に落ちる所まで掘り下げるとはっと気がつくのです。

・ 国債の動向

ギリシャが問題になっています。明日の再選挙によって、ユーロ圏から離脱もあり得る状況です。いずれにしてもデフォルトは起きると思います。ギリシャ以外にも、イタリア、スペイン、ポルトガル...欧州の危機というのは、現実のものになっています。これは何のことはない、日本の銀行がやっていることを国際的にやっているだけの話です。潰れそうになった会社があると、一度潰す格好にしてお金を入れますね。今回の東電もそうです。銀行側から見れば、危ない会社にお金を貸し出して、潰さない。潰さなければ焦げ付かないからです。ですから、いくらでもデフォルト（踏み倒し）の国が出る状況です。

本質・大局・歴史の歴史の観点で見れば、日本でもデフォルトは2回ありました。第一次世界大戦が始まった頃の日本、高橋是清がどういうことをやったかを調べてみると、今の日本が見える。又、第二次対戦後昭和21年2月17日の新聞に金融封鎖という記事が出ていますから、ネット等で調べてみることをお勧めします。

今、出てくる用語としては、デフォルト、ハイパーインフレ、スタグフレーション（不況下における物価高）、デフレ、デノミ・・・これらがキーワードですので、気にして見てください。デノミに関しては二通りあります。ただ通貨の呼び方を変えるデノミと、実際に貨幣価値を落としてしまうデノミです。実際に貨幣価値を落としてしまうデノミはソ連からロシアに変わった時がそうでした。その結果、2000万人の人が餓死と推定されるというのは何度も申し上げています。

私は日本でもこういったことが現実になり得ると思っています。いつ起きるか、国債の動向をよく見ていると分かります。銀行がバタバタ倒産して自分たちのお金がなくなる。今、寸前に来ていると思います。

・ 自然災害

大飯原発が再稼働します。そうすると自然災害の他に、今回は、核爆発の危険も考えなければいけません。自然災害はそういった人為災害に直結をします。

過去に日本で核武装を検討した時期がありました。2010年、NHKが村田良平元外務次官に対してインタビューをした際に、「佐藤栄作首相の時に核兵器の保有を日本は検討した」と明言しました。佐藤栄作さんが考えた結論は、日本は技術的に核爆弾を作ることは簡単である。しかしアメリカがストップをかけるために核武装は出来ない。今回は断念するというものでした。

今の日本の現状を見る時に、民主党の打つ無様な手・国債の動向・自然災害の三つの視

点から見る。それに自分自身の知識を増やし体験を増やして、何度も何度も同じものを見
続けて分析していくと、自分ではっと思うものが出てきます。はっと思うものが出てくれ
ば、自分はこうすべきだというものが生まれます。

本日の講話は以上です。有難うございました。